

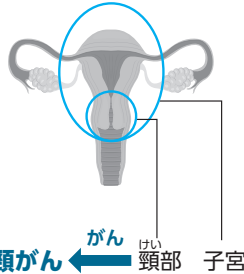
子宮頸がんは「HPVワクチン接種」と「がん検診」で予防！

【詳細】健康推進課 ☎45-6610

子宮頸がんは、子宮の出口に近い部分にできるがんで、日本では毎年約1万1,000人の女性がかかり、毎年約2,900人が亡くなっています。子宮頸がんは、HPV（ヒトパピローマウイルス）ワクチン接種と定期的な検診で予防することができます。

■ 子宮頸がんってどんながん？

子宮頸がんの95パーセント以上は、HPV（ヒトパピローマウイルス）の持続感染が原因

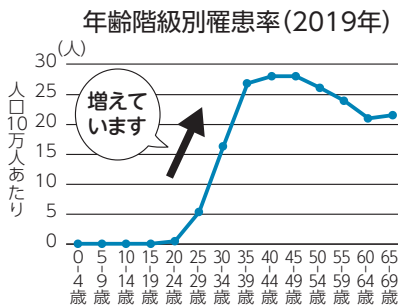


性交渉によりHPVに感染

■ 若い女性に急増

一生のうち、
子宮頸がんにかかる人
女性76人に1人

一生のうち、
子宮頸がんで
命を落とす人
女性300人に1人



正しい知識でワクチン接種を

子宮頸がんは、近年20～30歳代の若い女性に増えており、30歳代後半がピークとなっています。ちょうど出産年齢期にあたり、この病気により妊娠・出産を諦めなければならない場合があります。

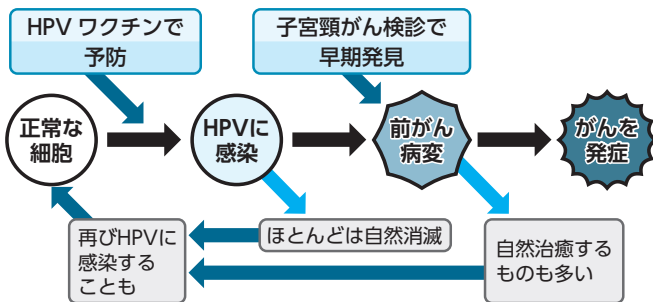


製鉄記念室蘭病院
産婦人科 科長
春日 英貴子 医師

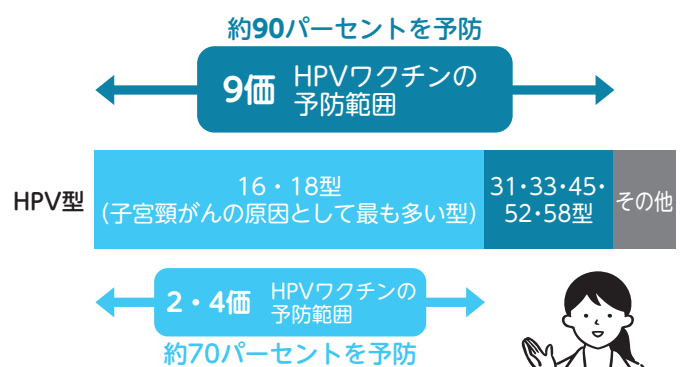
HPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルス感染が原因ですが、ワクチン接種によって高い割合で予防できます。世界では既にワクチンの安全性が証明され、積極的に接種を推奨しています。子宮頸がんは撲滅可能ながんと考えられています。いま一度ワクチンに対する正しい知識を得て、周りの大事な人と十分話し合い、ワクチン接種を検討してください。

■ 子宮頸がんを予防するために

子宮頸がんを苦しめないために私たちができることは、HPVワクチン接種と子宮頸がん検診の2つです。



子宮頸がんの原因となるHPV型とワクチンの予防範囲



HPVワクチンを無料で接種できます

- 定期接種
対象：小学6年生～高校1年生相当の女性
- キャッチアップ接種
対象：平成9年4月2日～平成19年4月1日生まれの女性
※過去にHPVワクチンの接種を3回受けていない人。

HPVワクチン接種ができる医療機関

室蘭・登別の予防接種実施医療機関で受けられます。右の二次元コードから市ホームページをご覧ください。予約方法などは、各医療機関にお問い合わせください。



20歳になったら 子宮頸がん検診を受けましょう

HPVワクチンを接種してもすべてのHPV感染を防ぐことはできません。また、子宮頸がんの初期はほとんど症状ありません。子宮頸がん検診は、がんの一手前（前がん病変）で発見して適切な治療によりがんへの進展を防ぐためのものです。初期がん（高度異形成や上皮内がん）の段階で発見できれば子宮を残すこともでき、妊娠や出産も可能です。早期発見のためにも、2年に1度検診を受けましょう。